

地域応援プロジェクト

～同志社から、スポーツの力で恩返し～

春・秋連続学期

京田辺校地開講科目

1. 目的・概要

the purpose and an outline

私達のプロジェクトでは、大学のある街“京田辺市”で地域の応援活動を行い、地域発展や活性化につなげることを目的としました。そこでスポーツの力と大学の資源を活用した企画の提案と実践を行うことで、さらに活動を通してプロジェクトメンバー自身も成長することを目標としました。

地域を応援するためのツールとしてスポーツを選んだのは、スポーツに特別な力が存在するからです。スポーツを通して人との出会いや絆が生まれたり、大きな感動を覚えたりしたことは、誰もが有るのではないのでしょうか。プロジェクトメンバー自身も何らかの形で恩恵を受けています。私達はスポーツが大好きで、その魅力を多くの人に伝えたいという信念のもと活動してきました。

目的を達成するために、スポーツを通して互いに交流を図り、助け合い、関わる全ての人々が学びの場を共有し合えるプロジェクトにしようと奮起しました。具体的な施策として春学期に、2019年に日本で行われるラグビーワールドカップを視野に入れ、小学生を対象としたラグビーのイベントを開催しました。イベント開催後の成果報告会で、京田辺市役所職員との新たな出会いがあり、秋学期には京田辺市役所の協力のもと、バスツアーとスポーツキャンパスツアーを合わせたイベントを企画、実践しました。計画からイベント終了まで多くの課題を解決していく中で、メンバー同士の絆も深まりました。年間通して、1つのイベントを成功させるために必要なプロセスを、身をもって学び、自身の成長を感じることが出来ました。



annual schedule

2014年 4月	プロジェクト科目始動 今後の方針・企画についてのディスカッション
5月	京たなべ・同志社スポーツクラブ竹田会長より京田辺市のスポーツ推進の現状の講義 同志社大学卒業生大西氏から情報共有・プロジェクト管理方法についての講義 春学期の最終目標・活動内容の決定
6月	イベント当日に向けての準備 29日 イベント開催「京田辺から世界へ～きみはラグビーを知っているか?～」
7月	イベントの反省とまとめ 今後の課題についてのディスカッション 成果報告会に向けての準備 27日 春学期成果報告会、秋学期の取り組みについてのディスカッション
10月	秋学期開催のイベント決定、市役所との連携事業決定
11月	イベント準備、リハーサル、パンフレット作成準備
12月	市役所との最終打ち合わせ、成果報告会準備
3日	パンフレット納品
7日	イベント開催「同志社スポーツアドベンチャーツアー ～すこいぞ! どきどき、うきうき、しりたい、同志社!～」開催
2015年 1月 18日	秋学期成果報告会

2. 成果達成度

the achievement degree

I 「京田辺から世界へ ～きみはラグビーを知っているか?～」

開催日：2014年6月29日(日)

参加者：小学1～3年生20人

集客方法：チラシ配布

今回のイベントでは、地域が一体となって同志社ラグビー部を応援すること(地域⇒同志社)、そして地域の人たちにラグビーの魅力を感じてもらうこと(同志社⇒地域)を目的として企画・実施しました。具体的な中身としては、同志社大学体育会ラグビー部の公式練習試合観戦と、ミニラグビー体験を行いました。イベント終了後、小学生とその保護者の方にご記入いただいたアンケートでは、今回のイベントについて「とても良かった」、「良かった」がほとんどを占め、「迫力があってすごかった」、「もっと色んなスポーツで、このようなイベントを行ってほしい」などのご感想を頂き、秋学期の活動へのモチベーションにつながりました。



【反省点】

リハーサルまでの準備期間が短く、本番に向けて余裕をもって行動することができませんでした。また、メンバー同士のコミュニケーションが少なく、全員の意思疎通が出来ていませんでした。以上の反省点から5W1Hを意識し、全員の意思疎通が出来る環境が必要だと考えました。

II 「同志社スポーツアドベンチャーツアー ～すごいぞ! どきどき、うきうき、しりたい、同志社!～」

開催日：2014年12月7日(日)

参加者：20人(小学生から高齢者まで)

集客方法：京田辺市役所Facebook、Twitter、ポスター掲示

このイベントは、春学期の成果報告会の場でプロジェクト科目と連携したいと声をかけてくださった京田辺市役所と協力して開催したものです。体育会部活動の練習や試合を見たり、筋肉に関する専門的な知識を交えた学生による講義を行ったりすることで、同志社大学のスポーツの魅力を感じてもらい、そして大学と地域との交流を図るために企画・実施したものです。見るだけでなく、実際に参加者の方にも体を動かしてもらうことで、より深い理解とともに楽しんでいただけた。イベント終了後にご記入いただいたアンケートでは、「学生さんの対応がとても良かった」、「新しい発見ができた」などのご感想を頂きました。



【反省点】

春学期の反省を活かして役割を分担し、それぞれの進展状況をCNSで挙げていくことで、準備が早く進みリハーサルを重ねることが出来ました。改善点としてタスク管理表をもっと上手く活用出来ればよかったです。

3. プロジェクトを通じて

through a project

年間の活動の中で最も重要であると痛感させられたものが段取りです。「5W1H:いつ(When)、どこで(Where)、だれが(Who)、なにを(What)、なぜ(Why)、どのように(How)」を意識してメンバー全員が考え行動し、準備に当たっていかねばならないということを強く実感しました。そして、成功を目標とするのではなく、より良いものを作り上げたいこうという気持ちが大切だと感じました。そのためには、期日を守ることが必要であり、時間に余裕をもつことや、一人一人が責任をもつことの大切さを学びました。秋学期は反省点を活かし、且つ、春学期以上のイベントを開催しようと全員で一致団結し、リハーサルを重ね、より良いものに作り上げることが出来たと思います。



このイベントにご協力、ご参加いただいたさまざまな方々と交流ができて、とても貴重な経験をすることができました。

【編集後記】

このプロジェクト科目を受講して、イベント企画・開催の難しさ、大変さを身に染みて感じました。苦労も多く感じましたが、もともとスポーツが好きだった私たちも同志社大学で行われているスポーツを、身近に感じることや深く関わることが出来たこのプロジェクト活動を通して、更に、スポーツが好きになれたと思います。メンバーに恵まれたのもさることながら、一年間充実した活動にできたのは、時には戟を飛ばして私たちを正し、私たちの活動を温かく見守って下さった、高橋先生、SAの辻さん、プロジェクトOB・OGの皆様のおかげです。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

【プロジェクトメンバー】

日當 麻利(商3) 江口 剛史(生命医科2) 福永 倫也(生命医科3) 藤倉 美月(スポーツ2) 藤山 雪恵(スポーツ2) 荻野 咲子(スポーツ3)
高道 陽平(スポーツ3) 柘植 厚志(スポーツ3) 福田 宗孝(スポーツ3) 辻 和真(SA)